

最優秀賞

昔と今の人との関わり方

埼玉県立戸田翔陽高等学校 1年

鈴木 夢結

当時私は小学校低学年でした。ある日私は親戚の集まりがあり、みんなで食事に行きました。ここでは初めて会う人もいたのですが一番印象に残っている人が一人いました。その人は聴覚障害のある方で、あいさつや会話も全て手話を使っていました。それを見た小さい頃の私はどうすれば分からずに戸惑ってしまいましたが、その人の家族が聴覚障害や手話について教えてくれました。その時の私は障害のある方とコミュニケーションをとるのが初めてでしたが、子供の考えなりに楽しくコミュニケーションをした事を覚えています。

障害のある方と、なぜ楽しくコミュニケーションをとれたのかについて考えました。今の答えは、「今より考えが複雑ではなかったから」です。今は様々な障害について知っていたり、当事者やその家族の気持ちをよく考えて気を遣ったりしていることが一番の原因だと感じています。年を重ねるにつれて色々な考え方になって、人との関わり方も変わってきて、その中で障害のある方とのコミュニケーションは非常に刺激のあるものだと思います。知識や気遣いもなかった昔の子供らしい純粋さが、きっと楽しいという感情だったのかもしれない。社会福祉の授業で車いすレストランの動画を見たときに、「気を遣われるのも生活しにくい」という言葉を聞いて気付きました。大人になって子供の頃の素直さや純粋さが減ると、できるようになることが増えると同時に誰かがモヤッとすることもあるんだと分かり、少し悲しくなりました。あのときの私は今のように複雑な考え方や感情がなく、本当にただ教えてもらう手話を楽しんでいました。自分とは違う生活の人に対する純粋な想いがお互いにコミュニケーションの楽しさにつながったんだと思います。もし自分が障害のある生活を送っていたら、私も小さい子供と接している方が気持ちも楽で、素直に楽しめて、一言一言に素直に嬉べると思います。大切なことは、気を遣うことだけではないと分かりました。色々な人とコミュニケーションをとって関わりを増やしていくなら、もっと「楽しさ」や「喜び」を重視して求めてもいいんじゃないかと考えました。そうすることで心のふれあいも深まり、障害のある方とのコミュニケーションの楽しさをよりよく知れるのではないのでしょうか。正直、今の私は自分と障害のある人の違いから、一線を引いているような気がします。普段の生活においても違うことが多いので、日常の中で無意識に「障害のある方」として見てしまっているところがあります。そういった無意識が、障害のある方とのコミュニケーションにも影響を及ぼしているんだと考えました。それも昔より障害のある方との関わりに対する考えや気持ちが複雑になった理由の一つでしょう。障害のある方を特別視したり、自分と周りと比較して差に目を向けるのではなく「自分と同じ人である」と思う方がいいのかもしれない。心のふれあいにおいて大切なのは見る目を変えないことだと思っています。もっと相手の立場になって考えて、どういった対応であればお互い心地よい関わりができて良好な関係を築けるのかを想像すること。それができればきっと気の遣い方や接し方も大きく変化するでしょう。

自分ではない人との心のふれあいや心の輪を広げる方法に正解はありません。そのための努力にも正解はありません。自分の考えを持って、それを日常で活かすことができているのであれば良いと思いま

す。私は今後障害のある方と関わる機会があれば、素直に楽しめるようにしたいです。今回こうやって自分の気持ちを考えてみて気付いたことが本当にたくさんありました。この気付きはこれからの人生でとても大切なことです。今の自分の考えと昔との変化を忘れずに生活していけるように、これからも障害のある人ともない人とも、たくさん関わっていきたいです。